

打瀬中「～心に響け打瀬の輪～ 音魂祭」が終わる



10月22日(土)、今年も打瀬中学校「音魂祭」が千葉県文化会館大ホールを使って行われました。1,800人も収容できる本格的な大ホールで思い切り歌えるのは人数の多い打瀬中ならではのことで、生徒諸君はクラスの仲間と一緒に歌える喜びを感じて、カー杯歌っていました。

【松村】

今年の音魂祭は直前にインフルエンザの流行などがあり、生徒は全員会場内でもマスクを着用、休憩時間以外にも空気入れ替えのため小さな休憩を挟むなど例年とは少し雰囲気の違う大会となりました。

まず、気になる結果です。今年音魂祭で最優秀賞を得たのは3年G組の「ほらね」でした。歌で被災地を応援しようと作られ、Nコンでも歌われた曲をG組は心を込めて歌っていました。素人ながらとてもバランスのいいハーモニーで細かい所まで丁寧に歌っていると感じました。G組のみなさん、素晴らしい合唱をありがとう。

優秀賞に輝いたD組の「島よIV」もいい演奏でした。実は僕は音魂祭の練習を取材してきつとこのクラスが優勝だろうなと思っていました。練習の全期間を通じてクラスの全員がよくまとまり、歌う楽しさを存分に感じながら練習していました。優勝のG組と差があったとすれば合唱の完成度でしょうか。余りに気持ちよく歌えたの

で、つい大声が出てしまったというくらいの差だと思います。

今年の音魂祭はどのクラスも本番ではとてもいい演奏をしていました。毎年明らかに全体のレベルがあがってきているように思います。先輩から後輩に伝えられていく中で、だんだんと打瀬中独自のハーモニーが育っているのでしょう。今年の1年生、

2年生は昨年の同学年よりも練習のときから質の高い演奏をしていました。

音魂祭はクラス対抗の合唱コンクールです。いい演奏をするにはクラスの団結力がカギになります。そのために毎年多くのクラスでドラマが生まれます。練習に乗り気でない男子をどうやる気にさせるか。音程やリズムなど技術以前の「調整」に時間がかかります。例年音楽以前にその問題が解決できずに音魂祭に臨んでしまうクラスがいくつかあるのですが、今年の3年生はほとんど全てのクラスがよくまとまり、クラスの和ができていたように感じます。合唱という文化行事に男子もこれだけ積極的に参加し、本気でぶつかる。普通の中学校では見られない風景です。改めて打瀬中の魅力を感じた音魂祭でした。



コンクール前の校歌の演奏。今年1年間校歌の伴奏と指揮を行事ごとに行った福室君(ピアノ)と向井田君(指揮)はこの音魂祭が最後の演奏となり、2年生にバトンを渡す。

打瀬小、美浜打瀬小の設計者 小嶋一浩氏死去

建築家の小嶋一浩氏が亡くなったという知らせを打瀬小初代校長の溜先生からいただきました。小嶋氏と工藤氏が設計した打瀬小はベイタウンの街の文化にも大きな影響を与え続けています。

小嶋氏と親交の深かった溜先生からの追悼の文を掲載し、ご冥福をお祈りします。

「未来の卵」を産んだ人 小嶋氏を悼む

打瀬小学校初代校長 溜 昭代

打瀬小、美浜打瀬小、幕張インターナショナルスクールを設計した建築家小嶋一浩氏が10月18日になくなったことを知ってショックを受けた。流山のおおたかの森小が最後の作品のようだが57歳の死はあまりに早い。

開校時の打瀬小の教員は、シーラカンス主催者の小嶋氏、工藤氏の作品である「オープンスクールを超えたオープンスクールの打瀬小」を、それぞれの教育思想を実践で

きるチャンスと志願した者たちだった。私は打瀬小を未来の卵と称して、未来からの留学生を育てる夢を職員にも街の人にも語った。

小嶋氏も先生方のことを「打瀬小を使い倒してくれた」と感謝していた。建築家の意図と意欲的な使い手が創造した打瀬小。今は留学生たちも活躍しだした。

小嶋さん。ありがとうございました。



入場30分からホール前に集まった生徒たち。インフルエンザのためマスク着用が義務づけられていた。



丸いアリーナが印象的な小嶋氏と工藤氏が設計した打瀬小学校。この街で最初にできた建物は街の文化さえ方向付けた。

子ども記者が伝える

今僕の学校では…

美浜打瀬小学校 6 年生

No.6



美浜打瀬小編集

美浜打瀬小学校の6年生は、夏休み直前の7月12日（火）から15日（金）まで、農山村留学に行きました。住んでいるペイタウンを飛び出して、普段とは違った海や自然、人と触れ合って様々なことを学んできました。今回は、3人の6年生から農山村留学で思い出に残ったことや感想について書いてもらいました。

「今年から始まった民泊」 山本 菜月

私が農山村留学で一番楽しかったことは民泊です。磯遊びでは、かになどの色々な生き物がいて、生き物と触れ合えます。また、野菜の収穫もさせてもらい、トマト、カボチャ、スイカなどいろいろな作物がとれました。

民宿の中で行った思い出フォトフレーム作りでは、自分の好きな貝などをつけて作りました。とてもかわいいです。料理もどうかで、たくさんの料理を出してもらえます。自分の苦手な食べ物は抜いてくれます。宿の人も優しく、思い出に残る民泊となりました。

「大房岬の夜」 水島 隆介

大房岬自然の家では、夜にキャンプファイヤーをしたのが印象的でした。火の神、火の子が火をつけ、ゲームをしたり、フォークダンスを踊ったりして楽しみました。「もうじゅうがり」などのゲームもとても盛り

上がって、思い出に残りました。農山村留学でのキャンプファイヤー、もう一度したいです！



野外炊飯でカレー作りに挑戦。身につけているエプロンは家庭科の授業で作ったもの。

「みんなで作ったカレー」 本多 なな子

最終日の最後の活動は野外炊飯。みんなが身につけているエプロンは、農山村留学の前に家庭科の授業で作ったものです。それぞれ、活動班二つが一緒になってカレー作りに挑戦しました。ご飯は、はんごうで炊きました。こげちゃった班やうまうまいった班、それぞれでしたが、どの班も絆が深まった野外炊飯でした。私は、この野外炊飯という、大きな目標に楽しく取り組めたので、よかったです。

美浜打瀬小学校の紺色帽子（6年生）は、農山村留学で学んだことを生かして、卒業まで自分たちをより磨いて、よい卒業が迎えられるように頑張っていきたいと思います。

シリーズ ニュース創刊の頃の話 (4) コミュニティ・コア建設計画発表

（前号からのつづき）

今月は街開き後間もない頃のペイタウンで最大の出来事、「コミュニティ・コア建設計画」の話です。ペイタウンに自由で独創的な文化があるとしたら、その発端はまちがいなくここにあったでしょう。

前回より話を少し戻してペイタウンニュースの発行を準備していた頃、企業庁から自治会を作ろうと集まっていたメンバーに「コミュニティ・コア」建設についての打診がありました。

内容は住民が集まり楽しめるような施設をペイタウンにつくりたいので、については住民の意見をまとめて欲しい、というものでした。今から考えればこれは行政上の街作りのステップのひとつで、ある程度の人口が整えばそのための集会所のような公共施設をつくるのが求められてから出た事務的な話でした。平たく言えば「そろそろ公民館を作らないといけないうので、住民の希望をまとめてくれませんか」という程度のものだったようです。

ところがこの話を企業庁から受けて、自治会の準備会で発表されたときにはこの話は大きく変わっていました。「企業庁はこ

の街の中心になる施設をつくりたいが、この設計には我々住民にも参加させたい。ついでには住民代表の委員会をつくって欲しい」という内容になっていました。

公民館が街のホール建設という話になったようなものですが、この話は当時「どこにもない自由で新しい街をつくろう」と意気込んでいたメンバーの心を捉えました。「企業庁は本気で住民本位の街をつくろうとしている」。「我々住民が考えた施設を企業庁が作る」。そんな一種の熱気に酔ったような雰囲気会議の場を支配したのを覚えています。

ところが当時、仮称自治会を準備していた私たちにはその準備のためほとんど毎日のように各番街の集会所で夜な夜な集まって作業している状態で、とてもこの問題のために割く時間はありませんでした。仕方なく、この件については委員を住民から募集しようということになりました。そこで出来たのが当時広報委員だった金さんが制作した西部劇の「WANTED!!」（お尋ね者）ポスターを思わせる「コミュニティ・コア建設計画委員募集」ポスター。これを当時完成して住民が入居していた1～12番

街までの街区の掲示板に貼り出しました。

このポスターの効果はてきめんでした。ある若い建築家は「これこそ僕のやりたかったことです」といって委員参加希望を電話で伝えてきました。そして第1回の「コミュニティ・コア建設計画委員会」がパティオス1番街の集会所で開かれ、約20人ほどの住民が集まります。

この会議に集まった方々は実に多彩な人達でした。施設の建築に関する委員会という募集だったので建築関係の人が何人もいましたが、その他にも住民の文化施設ということで、自分たちの趣味を楽しめる場としての施設や設備を提案したいと集まった女性の方も多くいました。

ただ参加した多くの方に共通していたのは自分たちの提案したことが施設の建築計画に反映される。つまり街作りに自分たちが参加できるということに共感していたことです。これは先に紹介した金さんの手作りで気持ちのこもったポスターの効果でした。後になってこのポスターはこれまでペイタウンで作られた最も成功したポスターとの評価を得ることになります。

さて、この会議に参加した住民の中には、後にこの活動を通じて初期のペイタウン文化形成に最も影響を与えた人物、下川氏の名前も含まれていました。（次号につづく）【松村】

コア・フェスタ 2016 見てきました。

1日目 (10月8日)

まずはアトリウム展览展示をじっくり拝見し、ホールへと向かいます。「打瀬詩吟会」の詩吟がホール中に響き渡っていました。びしっと伸びた背中。鍛えられた喉から発せられ心に届く声。あまり接したことのない分野でしたが、日本の素晴らしい文化に触れる良い機会でした。

次は和室でお茶会です。入れ換えられたばかりの畳の香りの中、落ち着いた時を過ごす良い機会です。椅子席もありましたが、私は頑張って正座しました。この回はたまたま少人数で、お茶の先生や他のお客さんと和やかな場を持つことができました。生徒さんの和服でのお菓子やお茶の取次ぎ、掛け軸、季節のお花など、日本のおもてなしのココロはここから始まるのかなあと味わいました。

久しぶりの正座で疲れた足を癒そうと再びホールへ行くと打瀬中学校吹奏楽部の演奏の時間でした。テーマが世界一周の旅ということでなんとチャーハンがモチーフの曲が。フライパンが楽器に使われ、国語の先生の語りが食欲をそそり楽しい工夫がいっぱい。「やっぱり若い人たちのエネル

ギーはいいわね」とおっしゃるのは先ほどお茶席で一緒にいた古賀さん。きびきびと動き回る生徒たちからみなぎる若さでこちらにも元気をもらえたようです。

2日目 (10月9日)

プログラムの中に体験できるものがあったので、「アルバム会」の体験に参加しました。数枚の写真を組み合わせてA4一枚大のコラージュを作るのです。まず、きれいな台紙のセットの束を渡され迷いながら選びます。そして持参した写真をカッターで切り、配置をあれこれ工夫してメッセージなども挟み込み、両面テープで固定し、フレームに収めます。材料代で400円でした。作ったものをほめてもらおうと、満更でもありません。私の前に体験した親子連れは、両方の祖父母にあげるということで、2組作って持ち帰られたということでした。

「アルバム会」は毎月第一月曜日に活動し、様々な年代の方が集まり、おしゃべりをしながら楽しく作成し、お互いにほめあったり、情報交換したり、小さいお子さんを他の方があやしたり、とても和やかな

雰囲気なようです。これなら一人で参加しても大丈夫そう。また、展示された作品を拝見すると、様々な工夫が施された凝ったものが多く、センスも磨かれるかもしれないと思いました。

こういうワークショップが開かれていると、体験を通してサークルの内容について聞くことができ、何かやってみようかという積極的な気持ちになります。

一方、ホールでは様々な音楽サークルの発表が目白押しです。コーラスはミュージカルの曲など馴染みのある選曲。ソロギターサークルではクラヴィシンバルムという小型のチェンバロのような珍しい楽器が興味深かったです。どの発表からも観客を楽しませようという気持ちが伝わり、単なる「サークルの発表会」では納まらない意気込みでした。ペイタウンの底力を改めて感じた2日間となりました。【小原】



いつものアトリウムもフェスタ期間中は作品展示場に

ペイタウン子育て事情 ～「ツインズファミリー」～

最近、「子育てひろば・うたせ」(支援センター)に通う双子の親子が多く、お互いに情報交換しながら双子ならではの子育てに奮闘している、というお話を支援センターの保育士さんから聞き、以前から気になっていたコアの子育てサークル「ツインズファミリー」取材してきました。【斎田】

10月12日(水)10時過ぎ、コアの工芸室を訪ねると代表の東(あずま)さんが迎えてくれました。東さんも双子を育てた先輩ママ、お子さんはもう成人され、「ツインズファミリー」初代主催(本誌vol.71)の方から世話役を引き継がれました。平成15年に公民館サークルとなり、今年13年目。サークルは月1回、出欠の連絡不要、何時に来ても帰ってもよし、親子のペースでよいそう。なので、会場を開けていても一組も来なかった、ということもあるそうです。それでも、この会が毎月決まってあることが親にとっては心強く頼れる存在なのでしょう。

取材の日も最初は誰もおらず、話を伺っているうちに参加者が増えてきました。最初にやってきたのは、1歳代女の子の双子の親子。ツインズファミリーには、ここ数年支援センターの保育士さんも手伝いに参加され、ベビーカーから二人を降ろしてあげるところから早速フォローを。さらに双子親子が二組になっただけでも総勢6人、たちまち部屋は賑やかに。今度は女性が一人でやってきました。双子の子が幼稚園生というサークルのOGさん。たまに参加し、経験談やアドバイスをしてくれるそう。保

育士さんに、先輩ママ、なんと連携が取れたサポート体制なのでしょう。この日も続々訪れる双子のママ達から、食事の工夫、幼稚園選びのこと等沢山質問を受けていました。OGママ、当時を振り返り質問に答えようとしても、全く思い出せないこともあるそうです。つまり忙しすぎて覚えていない、それくらい必死の日々だった、ということ。双子の幼い子を育てるのはどれほど忙しい日々か、このエピソードで伝わるでしょうか…。でも、そんな苦労もある中、続々と集まってきた双子のママたちは、お出かけ情報・お揃いのファッション、限られた時間を惜しむように話に花を咲かせています。この日参加したのは1歳代～2歳代、6組の双子の母子。ペイタウンは以前から子どもが多い分、双子も多いのですが、保育士さんによるとまたここ最近さらに増えているとのこと。

双子というと「可愛いな」と思うのはもちろん、育てる側となると「大変そうだな」とどうしても思ってしまう。やはり双子を育てるママたちも、街を歩くと「大変ね」と声をかけられることが多く、励ましの言葉とわかっていても、それが度重なると同情のように聞こえてしまい、複雑な心

境になることもあるそうです。そんな中、街の人に「(双子で大変だろうけれど)ちゃんと身ぎれいにしてあげていて、偉いわね、上手にお育てね」と言葉をかけてもらいとても嬉しかった、という話を聞きました。とても気持ちに寄り添った言葉だなと感じました。

また、「一人ずつちゃんと見て育ててあげられたら…」と語る双子のママ。でもその眼差しから、試行錯誤しながら双子一人ひとりの個性をしっかり把握して、一生懸命育てている様子が伝わってきました。

ペイタウンのみなさん、どうか幼い子とその親に、引き続き温かい眼差しと手助けを、時に温かい言葉もかけていただけたら嬉しいです。そして育児に孤軍奮闘中のこれを読んでいるあなた、ちょっと勇気を出して、支援センターや育児サークルを覗いてみてくださいね。

「ツインズファミリー」：毎月第2水曜、午前10時～12時、打瀬公民館(コア)・工芸室にて開催



ジュニアコーラス フェアリーズ 第12回 定期演奏会 「Precious Moments」

日時：11月13日（日） 13:45 開場 14:00 開演

場所：コア音楽ホール

入場無料（4歳未満のお子様は入場できませんのでご了承ください）

< guest > ピアノ 飯田俊明、バリトン 大津康平

指揮・構成 森本真由美、ピアノ 白田圭介、パーカッション 渡部聡司

曲目：「ぼくはぼく」、「にじ」、ライオンキングより「サークルオブライフ」、オペラ座の怪人より「夜の調べ」他

フェアリーズは今年、6回目の全国大会出場をし、「第5回関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト」で、みごと一般部門1位金賞に輝きました！！地元の皆様の応援をいただき、おかげさまで充実した活動を行っております。美しいサウンドと、心に響くハーモニーを求めて、たくさんのメンバーが練習に励んでいます。

今回のステージでは、合唱曲の他、大好きなミュージカルナンバーを歌います。ぜひ会場にお越しください！ また、フェアリーズでは新メンバーを募集しています。お気軽にお問合せください。

第3回幕張ベイタウンマラソン大会のお知らせ

開催日：2016年12月4日（日）午前9時から

走るのが好きな方、運動不足を解消したい方など、地域の人々の交流の場として、毎年多くの方にご参加頂いています。

特に親子マラソンは、親子の絆が深まると大変好評です！！

この機会に一緒に走ってみませんか？ 歩いて行ける場所で、午前中には終了となりますので、お気軽にご参加ください。

アトラクションや模擬店もあり、応援の方々も楽しめます♪

申込用紙は、打瀬公民館（コア）、みすずユナイテッド幕張ベイタウン店に置いてあります。併せてお申し込みも出来ます。昨年は514名の方が完走しました！！

参加賞もありますので、たくさんのお申し込みをお待ちしております☆



花時計ふれんどり～コンサート Vol.6

日時：12月4日（日） 14:00 開演 （13:30 開場）

場所：ベイタウン・コア 音楽ホール

入場無料

季節のうたを楽しく歌う会「花時計」は、第6回コンサートを開催致します。

今回は、ゲストに素晴らしい弦楽四重奏団をお招きしています。また、私たちの歌声と、弦楽四重奏団との共演ステージもあり、ただ今、一生懸命練習中です。私たちににとってのこの大冒険はどんな結果になることでしょうか。皆様、楽しみにお越しください。お待ちしております。

11月のコア・イベント

わくわくおはなし会 11月のおはなし会

11月の常設おはなし会は

日時：11月19日 第3土曜日

時間：午前10:30から

場所：ベイタウン・コア講習室

今月もわくわくするお話を用意してお待ちしています。

年齢制限はありません。絵本の好きな大人も子どもも来てね。

予約は不要です。読み手も募集中、見学大歓迎

ブログ更新中・見てね** <http://blog.livedoor.jp/chibawaku/>

11月26日（土）寺子屋工作ランド

「やじろべえ」

日時：11月26日 第4土曜日 午前9:30～11:30

場所：ベイタウン・コア工芸室

今月はベイタウンでもたくさんあるドングリの実をつかって「やじろべえ」をつくります。

持ってくるもの：クレヨン、サインペンなど

参加費：50円（保険料）

第155回ファツィオリの会（コア文化振興基金後援事業）

日時：11月27日（日） 午前9:00～11:30

場所：ベイタウン・コア音楽ホール

フルコンサートピアノ「ファツィオリ」の演奏や他の楽器の演奏、声楽や合唱などに使って頂くことが出来ます。非公開でのご利用を希望のときは、ご相談下さい。定員になり次第締め切らせていただきます。聴きにきて頂くのは、自由です。

最新の情報は <http://www.baytown.ne.jp/core/> をご覧ください。

締切：11月20日（日）

申込先：TEL/FAX：276-3878（大垣）

E-mail：ymogaki@k4.dion.ne.jp

コア・フェスタ2016 こども将棋大会

今年もコア・フェスタイベントで恒例の「こども将棋大会」が、10月9日午後1:00から工芸室で行われました。今回ははじめて女子が準優勝に輝き、ベイタウンで将棋熱が高まっていることを感じさせました。大会の成績は以下のとおりです。

優勝：松本知隼君

準優勝：松本笑奈さん

第3位：山田竜太郎君

第4位：猪膝真紀君

